



ウィングブレード

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- 工夫しながら創作する喜びを味わう。
- 手づくりのものを使って遊ぶ楽しさを味わう。
- 道具の安全な使い方を習得させる。

2 活動の概要

- 大空を舞う羽「ウィングブレード」を作る活動です。できあがったブレードで、楽しく遊ぶことができます。また、工夫次第で、長く飛ばしたり、旋回するようにしたりすることができます。

- (1) 人数 120人以内
- (2) 対象 小学校3年生以上
- (3) 期間 通年
- (4) 時間 1.5～2時間（説明20分+活動70～100分）
- (5) 場所 体育館、研修室1・2（製作のみ）
- (6) 経費 70円／1作品
- (7) 指導 依頼のある場合、製作方法等について、自然の家職員が説明を行います。



<作品例>

3 準備物

団体	救急薬品
個人	特になし
自然の家	材料：発泡スチロール片（2枚）、フック（2個）、割り箸、 輪ゴム（大2本・小1本）、セロハンテープ、養生テープ 用具：鉛筆、油性ペン、型紙、カッターナイフ、カッターマット、金属定規 作業板

4 引率者の役割分担

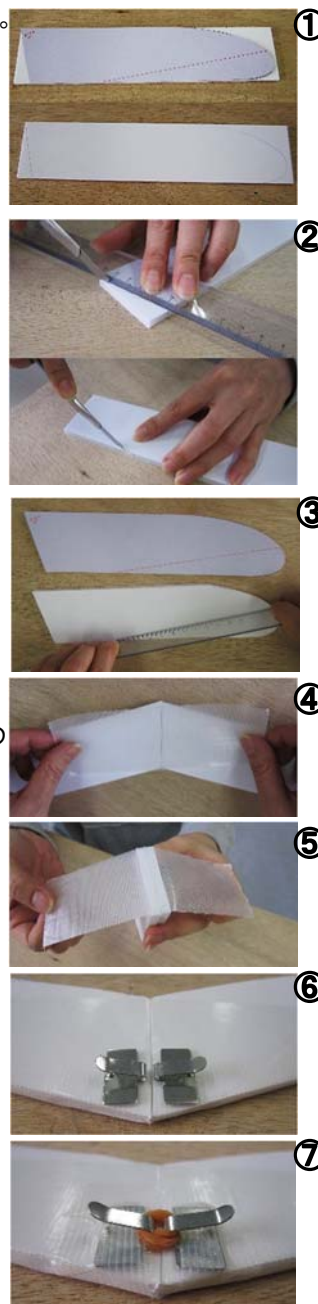
代表責任者	1名。全体の総括、指揮、連絡にあたる。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。



<飛ばす様子>

5 活動の流れ

	内 容
説 明	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を提示しながら、ブレード飛ばしを実演し、作り方について説明 用具の使い方と安全について説明
活 動	<p>①発泡スチロール片に型紙をのせ、1枚ずつ羽の形を描く。 ※羽を2枚使うので、①の作業を2回繰り返す。</p> <p>②描いた形にそって、カッターナイフで切る。</p> <p>③定規を押し当てるようにして、羽に型紙と同じ位置に折れ線を付ける。</p> <p>④折れ線を付けた羽をひっくり返し、75度で切った切り口を合わせ、養生テープで留める。（長さ10cm位） ※ 隙間を開けず、しっかり留める。 ※ はみ出たテープは、反対側に折り返して留める。</p> <p>⑤ ④で留めたテープ側に羽を折り重ね、養生テープで留める。（長さ10cm位） ※はみ出たテープは、反対側に折り返して留める。</p> <p>⑥フック（裏面に粘着テープ付）を左右対称に付ける。 補強のためセロハンテープをクリップの上に貼る。 ※貼る位置は、羽の中心から約5mm開ける。</p> <p>⑦羽を開いて、輪ゴムをフックに巻く。 ※羽を閉じた時、輪ゴムの力で羽が勢いよく開く程度に巻く。</p> <p>⑧カタパルト（射出機）を作る。割り箸に輪ゴム大を2つつなげて結ぶ。結び方は、ひばり結び、巻き結び等、緩まなければよい。</p> <p>⑨油性ペンで、お好みの色や絵付けをする。</p> <p>⑩完成したブレードを飛ばして遊ぶ。 ・2つ折りにして持ち、片方のフックにカタパルトのゴムをかける。真っ直ぐ下に引いて離し、真上に向けて飛ばす。 ※体育館キャットウォークにのった時は、指導者がとる。 ※外で飛ばすと上空の気流に乗り、落ちてこなくなる場合や木や屋根の上に乗ってしまうことがあるので、屋外では飛ばさない。</p> <p>＜応用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 長く飛ばすためには、どんな工夫をすればよいか？ 発射した所に戻ってくるようにするには、どんな工夫をすればよいか？
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 感想発表や友達の作品の鑑賞 用具の返却と後片づけ



6 実施上の留意点

- ・2週間前までに、製作数を自然の家に連絡する。

7 安全に実施するためのポイント

- ・刃物を扱うときは、刃の前に指や手を置かないように十分気をつける。
- ・用具を散乱させておかないように注意する。